連続女性殺人：ウガンダにおける女性に対する暴力の予期せぬ展開

ハディジャ・ナキムエロ（ウガンダ）

以前から、ウガンダは概ね快適で安全な国であり、ジェンダーに関する問題意識も高いと考えられてきました。現政権は、これまでキッチンに閉じこもって家事に専念していた女性たちに社会参加を促し、社会的、経済的、政治的により高い地位に就くことを可能にさせたとして、30 年以上にわたり高く評価されてきました。しかし、女性たちが本来就くべき地位を完全に手に入れるには、より一層の取り組みが求められています。

このような状況の中、2017 年にこの国で起きた異常な出来事はいまだに全容が解明されておらず、ウガンダ国民、とりわけ女性に衝撃を与えました。のちに女性殺人の年と呼ばれるようになる 2017 年は、女性を標的とした殺人という、凄惨で謎に満ちた犯罪が数多く発生した年でした。この国は、女性に対する暴力の中でも最悪のケースに直面したのです。国内で合計 25 名以上の女性の命が奪われました。2017 年末までに報告されたのは 23 名の女性の殺害で、その全てが首都であり首位都市でもあるカンパラもしくはその周辺、特にエンテベやワキソで起きました。また国内の別の場所で、この 23 件の事件とは別の事件も発生しています。

ニュー・ビジョン紙に掲載された殺人被害者リスト　被害者 No.20 ナキムリ・ローズさん（ご冥福をお祈りします）

出典：ニュー・ビジョン紙

Julian Hattam 氏による記事, www.pri.org/stories

この謎に満ちた連続女性殺人は、地域社会を恐怖に陥れただけでなく、この国全体にある種の絶望感をもたらしました。この一連のおぞましい殺人には、ほぼ共通した特徴がありました。それは犠牲者がレイプもしくは絞殺（またはその両方）されており、さらに口もしくは性器（またはその両方）に木の棒が挿入されていたという点です。治安当局によると、犯行の理由としては痴情のもつれ、無職の若者の集団による契約殺人、薬物乱用、アルコール依存、魔術、ドメスティック・バイオレンス、臓器売買目的、悪魔儀式など、さまざまな可能性があるということです。類似する連続殺人の理由として多くの可能性が挙げられたことで、国民は困惑しました。それがさらに女性の間で社会不安を引き起こし、緊張、恐怖、精神的トラウマ、さまざまな苦痛などが広がっています。誰もが、次の犠牲者は自分かもしれないという恐怖を抱いているのです。

さらに不安を助長しているのが、何よりも国民を守るべき存在である政府が、この事件にさほど注目していないという事実です。公表された一連の殺人事件に関する報告書は、表面的でしかありません。さらに、警察は何ら責任を問われることなく、単に女性に対して注意喚起をするだけで、夜間は単独行動を控え、家から出ないようにと呼びかけているだけの状況です。女性国会議員、ジェンダー労働社会開発省、各政党、弁護士会、女性 NGO 以外の市民社会団体などの主張に対して、十分に耳が傾けられることはありませんでした。今回の連続殺人への対応から、政府の女性を守ることへのコミットメントに対し、人々は眉をひそめています。この国では女性は決して優先的に扱われていないため、命を奪われた被害者たちが女性だという理由で、政府は真剣に取り合おうとしていないのだと、多くの人が感じています。女性だから、政府は自分たちを守るために十分に手を尽くさなかった。もしも殺害されたのが男性だったなら、政府の対応も違っていただろう。女性たちはそう信じています。そのため、当然のことながら地元住民の大半は殺人犯の動機が政治的なものだと信じるようになっています。つまり、この国を不安定な状態に陥れる、もしくは国民が恐怖に怯えながら暮らさなければならない状況にすることで、政府に打撃を与えることが目的なのではないかと考えられるようになったのです。

ウガンダ・ムスリム・女性ビジョンセンターが行っている、女性に対する暴力(VAW)についての啓発活動
写真：著者

今回、多くの殺人事件の現場となったエンテベに偶然滞在していたウガンダ大統領が直々に、さらなる犯行を食い止めるという約束をしました。大統領はこの犯罪を「愚かな殺人」と呼び、事件に関わった犯人を逮捕する、政府にはもっと難解な事件をも解決する能力があるのだと、息巻いていました。後に数名の容疑者が逮捕され、夜間警備も導入されました。しかしながら、殺人犯を突き止めることができなかったという失態に対しては、概して何の説明もなされていません。

写真：殺人現場
出典： www.aljazeera.com/indepth/features/2017/10/women-murdered-uganda

一連の殺人事件は、その始まり方と同様に、謎に包まれたまま終わりました。しかし、この事件が起きたことで、重大な人権侵害と女性の周縁化という二つの問題が提起されることにもなりました。今回の事件から得られる教訓は、女性に対する意識を高めるために、国を挙げて取り組む必要があるということです。また、女性に対する暴力に抗議の声を上げ、具体的な活動を行うことが求められます。さらに、2010 年制定の DV 防止法を施行し、同法をさらに進展させた女性に対する暴力防止法を制定・施行することが必要なのです。